

浜須賀地区 防災都市づくりシンポジウム 開催報告

平成24年7月1日[日]

浜須賀会館で防災都市づくり シンポジウムを開催

茅ヶ崎市では、平成 21 年度に松浪地区、平成 22 年度に南湖地区、平成 23 年度に浜須賀地区で防災都市づくりワークショップを実施しました。また、浜須賀地区では、防災都市づくりワークショップでの話し合いをきっかけに、様々な地域の取り組みも進んでいます。これらの取り組みを地域の方々と共有し、さらに地域の取り組みを進めていくために、浜須賀地区の防災都市づくりシンポジウムが開催されました。

第 1 部では、東京大学 加藤先生の基調講演が行われました。第 2 部では、ワークショップの開催報告を菱沼海岸緑自治会の織岡さん、また浜須賀中学校の元石さんから紹介していただきました。

第 3 部では、中学生やワークショップの参加者がパネリストとなり、座談会が実施されました。

<シンポジウム内容>

日時：7月1日[日]13:00-16:00

場所：浜須賀会館

参加人数：84 名

第 1 部

★講演「地域から進める

防災都市づくりのポイント」

講演者：加藤孝明先生（東京大学）

第 2 部

★ワークショップの結果報告 その 1

菱沼海岸緑自治会 織岡 美法子 さん

★ワークショップの結果報告 その 2

浜須賀中学校 元石 悠貴 さん

第 3 部

★座談会「地域から進める

防災都市づくり」

～当日の様子～



第 1 部



第 2 部



第 3 部



発行：茅ヶ崎市 都市部 都市政策課
TEL 0467-82-1111（内線：2504）

発行日：平成 24 年 8 月
FAX 0467-57-8377

第1部

講演：「地域から進める防災都市づくりのポイント」

東京大学 加藤先生

<東京大学生産技術研究所准教授 加藤孝明先生>

都市計画やまちづくりを専門とし、昨年度実施された浜須賀地区防災都市づくりワークショップをはじめとした茅ヶ崎市の都市防災事業に幅広く協力。市民協働の防災まちづくりに意欲的に取り組まれており、神奈川県地震被害想定調査等、国や自治体の都市防災分野の専門委員等を数多く歴任。



◆防災の基本

○基本は人間を理解すること

→危険性は知識としてわかっている、
自分は大丈夫と都合よく考えてしまうもの。

○人間は防災対策を怠るというのが現在の構造

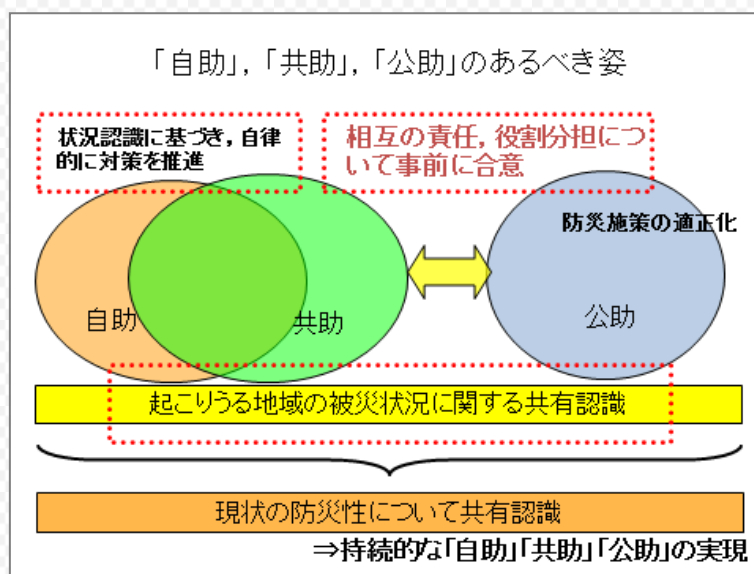
→多くの人を巻き込むためにも、「防災だけまちづくり」から「防災もまちづくり」へ

○「自助」「共助」「公助」が防災の担い手

→「地域で起こりうる被災状況を全ての主体が理解していること」、「それぞれの主体がどのくらい担えるのかを確認すること」が大事

○過去の災害や被災想定を学ぶことは大事

→しかし、条件が変われば被害も変わる。実際の災害をこの地域に翻訳して考える事が必要



◆これからの防災まちづくり

○各地域で新しいモデルを作りだしていく時代

→この地域の特性に合わせたモデルを作っていくことが必要

○防災だけまちづくりからの脱却

→防災だけまちづくりから防災もまちづくりへ

○防災は義務やボランティアでやること？

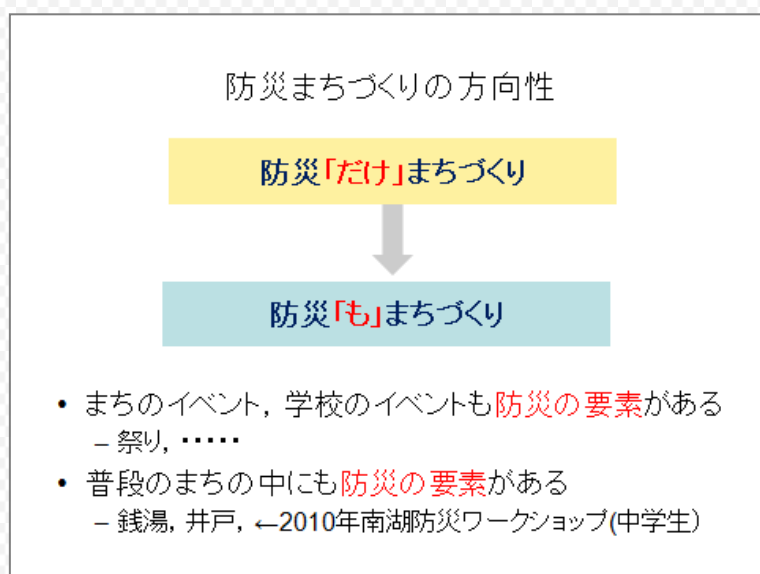
→防災を付加価値にし、安心を売りにすることや指揮命令系統のない新しいスタイルの防災計画へと広がっていく時代へ

○市民先行、後追い行政型

→地域の必要性から新しい仕組みを作りだして、新しいモデルを作り上げていくことが必要

○多様かつ緩やかな連携

→様々な組織を緩やかに連携させ、厚みをつけていくことで、全体として地域の能力を発揮



浜須賀地区防災都市づくりワークショップの開催報告

●浜須賀地区ワークショップ開催の経緯

参加者は浜須賀地区 12 自治会全てのみなさんの代表と浜須賀中学校の生徒さんと先生、東京大学加藤先生と学生さん、茅ヶ崎市関係各課職員でした。

連合会長のお考えで、この地区でやるのなら、全ての自治会を含めたものでなければ意味が無い、また、市の関係職員も集めてもらわないと話が伝わって行かないというお考えのもと、このような構成になりました。

●第1～第3回ワークショップの概要

第1回では、加藤先生の基調講演がございました。

「自助」「共助」「公助」それぞれの役割を考える事や地域で起こりうる災害のイメージを持つことの重要性、防災まちづくりのポイントなど、あらゆる視点からのお話がありました。

第2回では、班ごとにまちあるきをしました。災害時に危ない所の発見や災害時に活かせる資源の発掘を目的として歩き、戻ってきて早速危険箇所について話し合い、発表しました。

第3回では、まちあるきをふまえて浜須賀地区の課題を話し合いました。良いところや課題を解決するためのアイデアを話し合い、発表しました。



菱沼海岸緑自治会 織岡さん

●第4回ワークショップ アクションプログラム

第4回では、3回目で話し合ったアイデアを具体化するためにはどうしたらいいかを考え、アクションプログラムを作りました。アクションプログラムでは、今後実際に取組を進められるように、「何を」「いつまで」に取り組むかを考えます。重い課題を突き付けられているようですが、ワークショップにも慣れてきたせいか、リラックスしている様子も見受けられました。

各班からそれぞれ熱い思いを発表し、最終的に地域の皆様から前向きな意見がたくさん出ました。

●中学生からみたワークショップの様子

私たち中学生は、生徒会本部の生徒を中心に、大人の方々と一緒に4回全てのワークショップに参加しました。

第1回では、加藤先生の講演を聞き、市役所の方からワークショップで何をやるかの説明を受けました。とてもわかりやすく、以後の話し合いの参考になりました。

第2回では、加藤先生と一緒にまちあるきをしました。この地域の今まで気がつかなかったことを知ることができました。また、改めて地域のことをよく知ることができ、災害時にスムーズに動くことに繋がると思いました。

第3回では、まちあるきの結果をふまえ、浜須賀地区の防災上の課題には何があるかを加藤先生の司会で話し合い、その課題を解決させるために様々なアイデアを出しました。話し合いの後は大人の方々と同じように発表をしました。発表は他のグループの意見も聞くことができ、「なるほど」の連続でした。ワークショップの時にたくさんの人の意見を聞くことができました。今後、知らない人に挨拶をしたり、お祭りや公園に積極的に行って地域の方々と交流したりするなど、実際に行動できることをたくさん見つけて、行動していきたいと思いました。



浜須賀中学校 元石さん

●中学生班のアクションプログラム

第4回では、これまでのワークショップをふまえて地域としてやっていきたい具体的な防災対策について考え、アクションプログラムを作成しました。

このワークショップの経験を活かして、大地震が起きたときでも、できるだけ被害を小さくできるようにしていきたいと思いました。

中学生だけでなく、地域の方々と協力してより災害に強い浜須賀地区を作っていきたいと思っています。

防災都市づくりワークショップ、アクションプログラム詳細につきましては、茅ヶ崎市ホームページ掲載の『浜須賀地区防災都市づくりニュース』をご参照ください。

→ 茅ヶ崎市ホームページ>市政情報>まちづくり>都市防災>防災都市づくりワークショップ

座談会 1 / 7

1. ワークショップ以降の地域の実組

(加藤先生) まずは、ワークショップ以降、各地域でどのような取り組みをされているのか、おもしろい話があればご紹介いただければと思います。

(織岡さん) ワークショップで話し合ったことの中で特に覚えていることは、回覧板を渡す時のアクションプログラムです。今は郵便受けに置いて、「渡したよ」となっているのですが、ちゃんとピンポンを押して昔のように「こんにちは、回覧板です。お願いします。」そこに一言付け加えて「いいお天気ですね、暑いですね。」と、言葉を交わしてお渡しすることが、とても大事ですぐにやれることと話しました。

(遠藤さん) 街角パトロールを、今年は防犯と防災で併せてやろうということになり、先週行いました。倉庫別で防災パトロールをして結果を持ち合いながら、実際に防災倉庫を見て、発電機をたいてみたり、チェーンソーを動かしてみたりしました。地域のみなさんとこのようなことをしたのは初めてだったのですが、やっぱり自治会本来のあり方は、こういうものだと思います。屋根の下で話し合うのではなくて、青空の下でみんなと共有することが一番いいのではないかと、つくづく感じました。心なしか班長さんとかお子さんとか、お父さん、お母さんたちも輝いていたような感じがしました。(この取組は) 成功したと思っています。

(八木さん) 自治会全体に関することから申し上げますと、今は役員ではないのですが、ワークショップでやったことを共有するために、前期の役員の方には資料を作ってお話をしました。今期の役員の方にもぜひ引き継いでいただきたいと思ったので、引き継ぎ資料の中にも入れさせていただきました。

その他では、私自身茅ヶ崎に住んで2年目で、東日本大震災が起きた時にはまだ1年も経っておらず、非常の用意を全くしていませんでした。備蓄品や家具の固定等はワークショップを通して必要だと思ったので、きちんと行いました。あとはまちあるきをしてから、駅までの道などはいつもと違う道を通ってみています。行き止まりにぶつかってしまうことも多々あるのですが、新しい発見もあるので、色んな道を通って行ってみようという興味を持つようになりました。



(中学生) 浜須賀中学校では、津波や地震などの災害が起きたときにどうすればいいのかということで、「生徒としてできること」を生徒会の僕たちが考えて、校内の避難経路マップを作ってみました。

他にも、第2部のときに元石君から話があった様に、ブロック塀の補強など、浜須賀地区の中で出来ることを探していくことや、お祭りの一部に防災コーナーを作ることや、防災マンなどのキャラクターを作って子供達にもわかりやすいようにしようということで、色々と検討しています。あとは、僕たちが今回感じたことを浜須賀中学校の生徒にも知ってもらえるように活動しています。

(加藤先生) 素晴らしいですね。ワークショップで出たことから、きちんと第一歩踏み出している。

座談会2／7

2. 地域の活動が一步踏み出すためには

(加藤先生) ワークショップを契機として、それなりに意識は変わって小さな第一歩を踏み出しているということでした。次は、本当はこうした方がいいと思うけれど、一歩足を踏み出せない理由について議論させていただきたい。情報を共有させていただいて、今後どのような方向性があるかを議論していきたいと思います。

(遠藤さん) とにかく何から取り組むべきか、非常に悩みます。お金の問題もあり、容易に出来るものではない。

開高健記念館にある色紙に書いてありますが、『悠々と急げ』という良い言葉があります。あまり、ががつやろうとすると、息切れしてしまうと思うのですよ。ゆっくりと急げということは、やっているようでやっていない、だけど着実に活動をする。先ほど言われたように、(災害が) 30 年後にくるか 10 何年後にくかわからないけれども、それはもうきたら運命ですからしょうがない。もう割り切るしかないのので、じっくりと取り組んでいく。当たり前ですけども、ゆっくりやって行くしかないと思っていますよ。

ただ、自治会は役員さんがころころ変わりますから。やはり自発的にやるようにしていきたい。そして、みんなが協力している姿を見せる。先ほど申し上げたパトロールの後で、倉庫でみんなで楽しそうに防災訓練をやるとかね。笑い声が起きるとか、窓から覗いて「何やっているんだろう」と、思ってもらえるようにして、一歩踏み込んでもらう。

(加藤先生) 非常にいい言葉ですね、悠々と急げ。僕も今度どこかで使わせていただきたい。悠々と急ぎつつ、やはりこう継続性・持続性と言うのが極めて重要になってきますね。



3. 防災リーダーの地域での役割

(加藤先生) 今この地域で防災リーダーは、どのくらいいらっしゃるのでしょうか (場内挙手多数)。こんなにいるのですか。

防災リーダーの方と自治会の関係性というのはどういう形になっているのですか。

(遠藤さん) 自治会の中に自主防災組織というのがあるはずですけども、それに気がついて「これじゃいけない」と思ったのが今年の東日本大震災後なのですね。うちも規約を見たらあるような無いような名前だけの組織でした。「これではいけない」と思って、自主防災組織から手直しを始めました。防災リーダーに集まさせていただいて、実行委員とあわせて 12~13 名の組織を、母体としてこれから 2 か月に 1 回くらい会議をして、色々な取組を行っていきます。

各自治会で違うと思いますけど、私どもの自治会は防災リーダーが召集されることが一度もないので、自治会の集まりに防災リーダーも含めていただくと色々なことが共有できるかと思います。

(場内) 翠松会自治会です。うちの自治会長は 1 年毎に交代をしていきます。その自治会長を頭に防災組織というのが毎年出来ていたのですが、新しく自治会長になった方がわかったら、(取組が進む前に) 次の人ということで、なかなか継続して取り組んでいくことができなかったのです。

私が自治会長になったときに、誰も防災リーダーの研修を受けに行く人がいなかったの、仕方なしに一泊二日の研修を受けに行きました。このままではまずいだろうとなり、去年も自治会長さんが頑張ってくれて、何年か継続して続ける防災委員というのを募って、防災委員会を立ち上げました。



座談会3／7

(場内) 自治会長、副会長さんにも入ってもらっていますが、総勢11名で4～6月の間、月1回ずつ会議を設けています。今まで気になっていたことを分担して、計画を立てて原案を持ち込んできてくれている状態です。今年1年かけて、ある程度形ができていけばいいなと思います。

今度、平和学園さんで避難訓練をやらせていただくことについても、一人ではなく何人かで相談して計画を立てることができているので、色んなことが少しずつ進んでいます。防災倉庫の中も、懐中電灯の有無や、必要な電池等の細かいことについて、分担して少しずつ進んでいます。

先ほどの取組が進まない理由ということですが、一つは切迫感みたいなものと、もう一つはやはり継続的に人数を集められるかどうかではないかという気がしています。

(加藤先生) ありがとうございます。防災リーダーや、自治会での防災の進め方、どんな組織構成かという話の中で、防災委員会を新たに作られた、ということですね。(あなたは)防災委員会の委員長をされているのですか。

(場内) 自治会長さんにやってもらっています。私の方は業務ということで、何かがあったときに声を発してもらうのはリーダーの自治会長さんがいいだろうということになっています。

(加藤先生) まさに古くて新しいということですね。旧来型の自治会をベースにしながら、自治会長のリーダーシップと実務的な防災リーダーの力を上手に組み合わせる体制を作った例ですね。

(場内) 菱沼南部自治会のまつうらと申します。私どもの自治会役員はだいたいみんな防災リーダーになります。定年制がないので、どんどんと意識のある人が自治会の中で増えていくのは非常にありがたいことです。年1回の連合会の防災訓練には、防災リーダーが全員参加を致します。それ以外にも自治会としてどう取り組んでいくかは今後の課題だと思っております。そうした点も踏まえて、自治会長として色んな視点で震災にあった時に、どう減災出来るかを考えていきたいと思っております。

加藤先生は茅ヶ崎の防災をご担当いただいて、その割には防災リーダーのことを知らなくてがっかりしたのですが、もっと市は説明すべきだと思います。



(場内) これだけ防災リーダーを養成しているわけですから。そういう働きの中でぜひご指導いただきたいと思っています。

(加藤先生) 防災リーダーのことは、実は知っているのです。前の町会の時に、防災リーダーさんがいらっしやったのでわかっているのですが、地域の中でどういう役割を担っているかが見えなかったのです。今日お話を聞いて非常によくわかりました。要するに色々な位置付けになっている、地域によってだいぶ違うことがわかりました。

(遠藤さん) 実は防災リーダーが課せられているものは、はっきりしていないです。ですからこれを今後はっきりさせていって、防災リーダーにどういう任務を与えるのかということも考えていかなければいけない。

(加藤先生) なるほど。この曖昧さが僕は結構好きですね。

(遠藤さん) 本当に任務がないのですよね。だからボランティアとして自由にやってよ、という感じですね。文句を言っているわけじゃないのですが、もうちょっと指針が欲しいと思います。

座談会4／7

(青木会長) 防災リーダーの考え方は、市長が変えてしまったのです。僕は防災リーダーというのは、作る気持ちはなかったのです。(災害の際に) 自治会長に何かあった場合、防災リーダーが自治会長に代わって指揮命令系統を出そうというのが防災リーダーの始めです。今の服部市長さんになって防災リーダーを1000人作るという話になりました。防災対策課が一生懸命に自治会に向かって「研修をやるから女性も出してください」と連絡をしているだけで、曖昧なのです。ですから、自治会によって防災リーダーの役目は全部違います。私の自治会は、防災リーダーをあまり作らない自治会です。しかし、副会長には全員防災リーダーの資格を取らせています。

(加藤先生) 今の話を聞いて非常によくわかりました。別に対立させて議論する必要は全然ないので、一言で防災リーダーと言っても実は色んな役割がある。色んな防災リーダーがいる。自治会長って高齢な方が多いと思われま。災害時要援護者の候補者でもあったりするわけですよ。そうすると、災害時に町会長をきちんとバックアップする人がいないといけない。それが従来の防災リーダーであった。

今の防災リーダーというのは、その役割以外にも、「地域で担うべき防災リーダー」と称する人たちに役割があるということのような気もするのですね。そういう意味では今2種類の防災リーダーが並列して存在していて、会長のバックアップではない防災リーダーの人達の役割が依然と曖昧模糊としている。僕自身はこの曖昧模糊としている感じが非常に好きで、実は高く評価しています。

この曖昧な防災リーダーの層が厚くなっている。それを地域でどう使いこなすかが今課題になっていると思うのです。研修を受けた意識の高い知識のある人達を地域でどう活かすかが地域に逆に課せられている。一つの解決策として、防災委員会を作って、まちの地域防災計画を作っていこうという工夫をされた自治会があります。また、悠々と急ぐという中で、防災リーダーの層を厚くしていった、持続性・継続性を確保していくというものもある。一方で、まだ何も活用できていない自治会もあると理解しました。

いずれにしても他の市に比べれば、防災リーダーの層が厚いのは茅ヶ崎市の特長なので、この資源をどう地域で使いこなしていくのが、次の第一歩ではないかと思っています。



(加藤先生) ちなみに地域で活動されている茅ヶ崎トラストチームの方は防災リーダーに関わられていますか。

(場内) 私は以前、自治会の会長さんから推薦をいただいて防災リーダーの研修を受けさせていただきました。子供達のイベントを毎月やっているものですから、子供達が遊んでいる時に何かがあったら、私たちが何も知らないのは良くないと思っていたので、受けさせていただきました。現在茅ヶ崎トラストチームは7名ほどいますが、4名ほど防災リーダーの研修を受けさせていただいております。

(加藤先生) そういう意味では、地域の中で他の活動をしているグループとも、防災リーダーというキーワードで人材が重なっている。地域内でも緩やかな連携のできそうな一つのツールという位置づけもできるかと思います。今は多様ですが、少なくとも今後の第一歩として防災リーダーというのは、一つのキーになりそうかと思っています。

中学校を卒業すると、子供達は地域から離れてしまうのですよね。地域に関心が返ってくるのは定年退職後になってしまう。そうならないように君達(中学生)が、消防団とか防災リーダーとか、地域のために、常日頃から意識をしておいてほしいなと思います。

4. 地域に合わせてわかりやすく情報共有を

(遠藤さん) 7月15日に(茅ヶ崎市津波)ハンドブックとハザードマップが発行されますね。全戸配布だそうです。前回配布は7年くらい前ですか。全然記憶にないのですね。会社勤めしていたし、自治会に無関心だったし。回覧なんてほとんど見ていない平均的な親父だったわけですね。ハザードマップが出る前に説明会にも出させていただきました。6月の初め頃に、防災対策課に発行予定日や市からのコメントについて尋ねたのです。市からのコメントは特になくて、7月1日号の広報に少し掲載されるとのことでした。

これをもとにして家庭で話し合っていたことが必要だし、スタートラインだと思っていただきたいと私は思いました。当自治会では、回覧を独自に作りまして、1ページ目に「昔の震災のデータをもとにして作ったものです。ぜひこれをもとにして話し合ってください。これで絶対安心しないでください。」と書こうと思っています。

本来なら市でやるべきことだとも思いますけれども、考え様によっては、自治会が生の言葉で、会長名で出すということに意味があると思っています。市長名で出してもちょっと違うかと思っています。身近にいる会長さんの名前を出すことが大事だと思うし、その方がみんなが見てくれる。とにかく、このハンドブックとハザードマップは全戸に見ていただきたい。特にうちの自治会だけがやるというのはおこがましいのですが、他の自治会さんもどんどんそういうことをやっていただきたいと思うのですよ。私は、東海岸の自治会さんに色々教えてもらって、防災部会のレジュメやマップをコピーさせてもらうなど、色んなことをやっています。それからホームページを見ていると松浪地区なんかは結構きれいにまとまって報告していますよね。

一つの自治会だけでもダメなのです。ラチエン通りでは、こちら側が浜須賀地区で向こう側が東海岸地区で全然連合が違うから、共有する部分がほとんどないのですね。私はラチエン通りの安心安全を進める会というのをやっています、両方の10自治会で集まると、よその色んな声が聞こえるわけです。震災になれば「お前はどこの自治会だ」などと言っている場合ではないですから。



(遠藤さん) お互いの顔をよく知る必要もあるし、商店会もですが、これからもどんどん(良い取組は)盗んでみんなでお互いに譲り合って、あげあってもらいあっていく、そういうことが必要だと感じております。

(加藤先生) そうですね。非常に素晴らしい工夫だと思います。素晴らしい工夫というのは今の事例だけでなく他の自治会もたぶん行っている。それは「盗む」のではなく「素晴らしい工夫を共有する」ということですね。それによって地域、連合町会全体の備える力・防災の力が高まっていく。まさに、今回は連合町会を構成する町会から選抜されてきているわけなので、各町会の工夫を共有する場として、ものすごく重要だと思います。青木会長の最初の地区連合会で取り組むという設定が素晴らしかったのだと思います。だから、今あったような素晴らしい工夫を今後も共有していく。そういう場を作っていくことが今日の議論のもう一つのアウトプットかと思っています。

今の話で、町会長の名前で紙を挟むということが、僕は非常に重要だと思います。もし、市長の名前で挟んでいてこのマップを見たら、「市役所なんとかせいよ」と僕なら言いたくなります。市としてもやりたいが、やれない状況があるのも事実なのですね。そういう中で、地域の人達が地域に対して情報を伝えるということになれば、市に対して文句をいうという行動ではなくて、地域で主体的に、自分達で対策を考えていくという姿勢を喚起するきっかけになる。その視点からも非常に素晴らしいと僕は感じました。

茅ヶ崎市の『津波ハザードマップ』、『津波ハンドブック』については、茅ヶ崎市ホームページからダウンロードいただけます。

→ 茅ヶ崎市ホームページ> 防災> 新たな津波ハザードマップが完成しました～みなさんの手に渡った時がスタートです

座談会6／7

(織岡さん) 茅ヶ崎市津波ハザードマップ、ハンドブックの草案の勉強会がありまして、そこでこの資料をいただきました。それをもとにわが家でも話し合いをしました。これを見て「なんだ、全然大丈夫じゃない」と思ったのです。ですが、役所に問い合わせたら、地震の際は危ないから逃げるように言われました。ハザードマップの地図を見ると白ですから、安全なはずなのですよ。

この資料を我々夫婦ふたりで咀嚼するときも1時間以上かかりました。なので、それを年寄り独居老人とかひとり者の人に渡したとしても理解できないと思います。ですからこういうお話を浜須賀地区でしてくださる時には、この地区に必要な情報をかみ砕いて、ていねいに、浜須賀地区には浜須賀地区用の説明が必要なのではないかと思います。

いくら良い資料でも、県からもらったのをそのままでは市の意味がないので、やはり咀嚼した消化しやすいものにしていただくと、ありがたいハザードマップになると思います。(現状では) 正しい情報ではあるとは思いますが、消化しにくいという難点があると思います。

(加藤先生) 素晴らしい意見です。次のワークショップのテーマが出されたような気がしました。市がやるのか、あるいは自分の地域で説明しやすいように他の情報を付加するなど、(ハザードマップを作る際も) 青と白で一本の線で色分けされている所を、もうちょっとぼかして見せるなどした方がいいと思います。その地域ごとで工夫する内容も違ってくると思います。

市からの情報に対し、地域ごとに必要な工夫をするということも、こういうワークショップで1回やってみるといいかと思います。

(青木会長) 実はですね、浜須賀地区でも7月15日に全戸配布することは回覧で周知しております。東日本大震災以後、県が古い防災マップの見直しをして、最終的に茅ヶ崎市が判断したものが、今度配布する資料だと思っております。

浜須賀地区につきましては9月1日に防災訓練を実施し、この浜須賀地区についての説明を聞く予定でいます。普段の防災訓練というのは、浜須賀地区ではここ5、6年は避難所ごとにやっていたのですけれども、ひとつの所に地区全体を集めまして、その話を聞いて理解を深めていこうと思っています。



5. まとめ

(加藤先生) 今日議論した中で要点はいくつかあります。

1点目は、防災リーダーというのが茅ヶ崎市の特徴であり、かつ歴史もあるということです。継続性を高めていくためにも何かしらの役割が有りそうである。ただし、地域で使いこなせているとは言えない状況でもある。今日その課題が見えてきたし、新しい方向性も見えてきました。

2点目は、各地で素晴らしい工夫がなされていて、それを共有する場を作ることが、今後を考えたときに重要であるということです。素晴らしい工夫の共有の場でもあり、難しい悩みや課題を共有する場でもあり、そのような場づくりが必要になります。

3点目が全ての基本となるリスク、ハザードに関する情報を次の対策への第一歩に繋がるような形で理解できるようにする、というのが議論の中で出てきました。

最後に一通り全員に話していただきたい。今の議論、それからこれまでのワークショップの経験、自治会での活動、学校での活動を踏まえて、今後への抱負について述べて、願望・要望でもいいんですけども、基本的に自分がどうするか、自分の地域がどうするかについて述べていただきたいと思います。

座談会 7 / 7

(川村君) 先ほど、安全マップという話がありましたが、警戒する区域とそんなに警戒しなくていい安全な区域があつて、沢山区切つて、ここが一番危なくて、ここが一番危なくない等とすると、差が生まれてしまう。自分がちょっと安全な区域にいと、まだ大丈夫だなという思いが生まれてしまうから、私は常に安全な区域にいても警戒体制を取りたいと思います。

(元石君) 9月にビーチクリーンと言うボランティア活動をしします。その場でも東日本大震災をふまえた津波からの避難についての説明を、参加してくれた小中学生にする場合があります。そういうボランティア活動の場を増やしていつて、知識を知ってもらうというよりかは、より防災に興味を持ってもらうという観点で今後も続けていきたいと思っています。

(篠君) やはり浜須賀中学校で出来ることとしては、震災はいつくるかわからないのですが、来てからどうしようというのではなく、それに備えて何ができるのかをみんなで話し合っていけたらいいと思いました。

(八木さん) 私自身は、自治会の役員の任期は3月で終わってしまったのです。けれども、終わったからあまり関係ないという状況ではなくて、今後も何か協力できるようなことがあれば参加できるような体制を取っていききたいと思いました。

(遠藤さん) 昨年のワークショップに参加する際は、まちづくりって一体何をするのか、まちづくりなんてすごいこと我々ができるわけないと思ったわけですよ、実は。しかし、やっぱり自分達の住んでいるまちは自分達で守るということ、それにはやっぱり人がベースだということが1回目ですぐにわかりました。まちづくりはイコール人づくりだと、よく書いてあります。人づくりというのは、人がどういう目でまちを見るかということだと思ひます。

夕方や朝でも犬を連れて散歩をされる方がいっぱいいらっしやいます。ああいう方も時々は防災メガネというのが売っていますから、これから売ると思ひますのでね。それをかけてまちを散歩していただきたいし、あるときは環境メガネにしてゴミ問題で環境を見るときかね。色んなメガネで街を見ることが大事だと思ひました。自治会には老若男女色んな方がいらっしやって、人数は把握できてないのですよね。個人情報のガードが固くて。



(遠藤さん) 要するに人です人。人づくりということ、私も端っこのほうで後押しをさせていただき、これからみんなで取り組んでいきたいと思っています。

(織岡さん) 私は特に大きなことはできませんので、とにかく赤ちゃんを連れてお母さんに「こんにちば」と言う挨拶を必ずしているのです。お年寄りにも子供達にも、中学生にも、歩く人とにかく「こんにちば」と挨拶をして、いざという時にはおばさんがいるよ、と言うメッセージを込めているつもりです。

それでいざという時には、お隣のおばさんだけは助けるぞとこれは夫婦で決めております。浜小の避難所に連れて行くまでの仕事はするぞと決めております。私たちは二人で、一人しか助けられませんが。そして私は防災リーダーですから、いち早く浜小にかけつけます。

そんなことでコミュニケーションがとても大事だということを、全体を通して感じました。

(加藤先生) ありがとうございます。時間となりましたので、もうそろそろここで終わりたいと思ひます。

今日の議論を振り返ってみると、新しくて古いまち、古くて新しいまちだからこそ地域の力があるということを改めて再確認できましたし、こういう場の重要性と共に、次のステップの方向性も共有できたかと感じました。

最後に先ほど遠藤さんから防災メガネというおもしろいキーワードが出てきたのですが、実は研究で防災メガネに近いものを開発していますので、今年度終わりくらいに、披露してみたいと感じております。会場からも、本当はもっと意見を受け付けたかったのですが、けれども、時間となりましたので、これで終了させていただきたいと思ひます。

浜須賀地区 防災都市づくりシンポジウムの感想(1/2)

●これからこんなことをやっていきたい！

○最近、職場で防災に関するE ラーニングを全員受講しました。

被災場所によっては役割が異なり、職場での揺れに際しては事業所の位置する地域会への協力・支援が求められていました。

茅ヶ崎市では既に AED 指導の「応急手当普及協会」では事業所を巻き込んでいます。防災対策（防災リーダー）会議にも事業所を巻き込む取り組みをしていきたいと思います。（すでに事業者には上記の意識が普及していますので）

○配布されるハザードマップに町内会単位でのことばを添えるというアイデア、とても参考になりました。私どもでも検討します。

○体育振興会の納涼祭で「防災コーナー」の設置を検討したい。有意義な時間を過ごすことができた。防災リーダーとして気を引き締めて活動していきたい。

○こういうシンポジウムを繰り返していくことが必要であり、防災・減災意識をアップする事が、地域力 UPにつながると思います。

○自治会と防災リーダーの関連を考え直した方が良いと思いました（自分の自治会において）。

○ワークショップでも新しい情報を得ることが出来ましたが、今回のシンポジウムでも地域でいかすことが出来そうな情報を得ることが出来たように思います。今後、自治会内で、また個人で、いかせるよう取り組んでいきたいと思いました。

○防災リーダーの役割について、自治会でも考えていきたいと思います。みなさんの意識の高さ（防災についての）にびっくりしました。3.11 が遠ざかるにつれて意識がうすれていっているので、あらためて意識したいと思います。

○各地域の状況の認識が重要であることが分かった。さらにその中でもそれぞれの場所と状況をしっかりと把握と検討しておきたい。短期、中期、長期にやるべきことをやっていきたい。

○防災リーダーの役割もありますが、各家庭の中での意識を高める事が重要だと思います。また、話し合うためにも避難場所や安全なルートを提示することが肝要だと思います。又、地域の役割と市や県の役割も、もっと明確にして、個人で準備する物、地域で準備する物と利用方法等も各家庭に理解していただく事も重要と感じました。

浜須賀地区 防災都市づくりシンポジウムの感想(2/2)

●中学生の感想

○3部は一人一人の意見がとても新鮮でした。今日一日の全体を通して、必要なことやできることをしっかりやっていかなければいけないと言うことを強く思いました。災害の時は自分で考え、自分で行動しなければならないと思いました。

○今回のシンポジウムでは、いろいろな自治会の方々のお話を聞くことができ「なるほど」の連続でした。

○今日のシンポジウムを終えて、今までやって来たワークショップのまとめから今後のことまで復習出来てよかったなと思いました。今まではプランを立てただけで今後どうしようかなと思っていた所だったのですが、今は実際にやって被害を少なくしたいなと思えました。でも、中学生の私達だけではたいしたことはできません。やっぱり、大人の人を巻き込んでしまうことになるのですが、私達と大人の方々に出来ることをたくさん行いたいです。実際には、今現在進めている避難地図を作ると言うことが一番早く出来るものだと思います。

他にも、近所の人などにあいさつをして知り合いになったり、仲良くなったりすることによって実際に地震とかがあった時に声をかけ合って一緒に逃げたりすることが出来ると思うので、手間がかかって大変かも知れませんがやりたいです。

また、楽しく防災を学んだり出来るようなお祭りや、中学生消防団など時間をかけてでもやりたいです。

○第1回～第4回で行われたワークショップで、私は第3回しかでなかったのですが、今日の第2部で行われたワークショップのまとめがあったので、ワークショップでどんなことをやったのかと言うのがわかったので良かったです。

「茅ヶ崎トラストチーム」が行った「茅ヶ崎まるかじりプロジェクト THE サバイバル2011」が印象的でした。そのような感じで、私たちがワークショップ第4回で話し合ったときに出た、防災まつりの開催と言うので、トラストチームが行ったことをちょっと参考にして、それを中学生っぽくしてやったらいいのかな？と思いました。大人と混じってまちのこと、防災のことを話すと言うのはなかなかないことなので、正直難しかったけれど、いい経験をさせてもらったなと思いました。

(中学校の先生方より)

○学校の現場では、生徒たちは安全に避難させる対象になっていますが、地域では有効なマンパワーになりうると思っています。避難と地域の支援の関係をこれからも考えていきたいと思っています。ワークショップからこれまでお世話になりました。

○中学校としての一番の意義は、今回のワークショップに中学生が大人と同じ扱いで参加させていただいたことです。今回参加した生徒を中学生の「防災リーダー」として、彼らの言葉で全校生徒にアピールする場をもちたいと思います。